

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）医学部 医療検査学科

### 【教育課程等】

1. 大学設置基準第 21 条第 2 項においては、「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし（略）」と規定されている。一方、「シラバス」について、「組織解剖学」（2 単位）の学修時間は、授業時間が 45 時間（90 分/回:全 30 回）、自己学修時間が 30 時間（60 分/回:全 30 回）となり、計 75 時間となる。また、「臨床病理検討会」においては、授業時間が 12 時間（90 分/回:全 8 回）、自己学修時間が 16 時間（120 分/回:全 8 回）となり、計 28 時間となることから、いずれも授業回数及び自己学修の欄に記載された内容から推定される合計学修時間数が、前述の規定を満たしていないように見受けられる。このことから、これら授業科目における学修の目的を十分に達成することの疑義があるため、必要に応じて関係資料の記載や説明内容について確認の上、適切に改めること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 「シラバス」について、応用選択コースにおいて選択することとされている、「臨床検査応用」、「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」の授業計画では、通年で開講され、相当数の授業時間が設定されていると想定される授業科目であるにもかかわらず、授業回数の記載がなく、授業内容の事項も授業回数に対応しているとは見受けられず、どのような授業内容がどのように進められるかが判然としない。学生が当該授業科目を選択し履修するに当たって、当該授業科目で何を学び何を身につけることができるのかが明確に分かるよう、シラバスにおける他の授業科目も含めて改めて確認した上で、各回の授業内容を具体的に記載することを含めて、シラバスにおける記載内容を改めること。

（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

3. 「基本計画書」について、教育課程等の概要において一学期の授業期間は 17 週とされている。一方、「シラバス」に記載の各授業科目においては、多くの科目で 17 回より少ない授業回数が設定されていることから、当該授業期間の設定の妥当性に疑義がある。このことから、本学科の教育課程における目的の達成のために、適切な授業期間が設定されていることについて、必要に応じて関係資料の記載や説明内容について適切に改めること。

（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

**【教員組織】**

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(是正事項) . . . . . 9

**【その他】**

5. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第4号に規定する「学習の評価及び課程修了の認定に関する事項」のうち「学習の評価」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(是正事項) . . . . . 10

**【審査意見以外の対応】**

- <設置の趣旨等を記載した書類の別添資料7：教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表の修正> . . . . . 11

<履修科目の年間登録上限（CAP制）に関する記載の修正> . . . . . 17

(是正事項) 医学部 医療検査学科

1. 大学設置基準第 21 条第 2 項においては、「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし(略)」と規定されている。一方、「シラバス」について、「組織解剖学」(2 単位)の学修時間は、授業時間が 45 時間(90 分/回:全 30 回)、自己学修時間が 30 時間(60 分/回:全 30 回)となり、計 75 時間となる。また、「臨床病理検討会」においては、授業時間が 12 時間(90 分/回:全 8 回)、自己学修時間が 16 時間(120 分/回:全 8 回)となり、計 28 時間となることから、いずれも授業回数及び自己学修の欄に記載された内容から推定される合計学修時間数が、前述の規定を満たしていないように見受けられる。このことから、これら授業科目における学修の目的を十分に達成することの疑義があるため、必要に応じて関係資料の記載や説明内容について確認の上、適切に改めること。

(対応)

ご指摘を踏まえて、「組織解剖学」(2 単位)、及び「臨床病理検討会」(1 単位)の「シラバス」の内容と授業内容を精査し、大学設置基準第 21 条第 2 項に基づき、授業時間と自己学修時間の合計が 1 単位あたり 45 時間となるよう、学生に求める事前・事後の自己学修時間と取り組むべき内容を修正した。

両科目ではこれらの修正に基づいた教育・指導を行うことにより、到達目標の達成が可能となる授業内容とする。

(新旧対照表) シラバス「組織解剖学」(10 ページ)

シラバス「臨床病理検討会」(30 ページ)

新	旧
「組織解剖学」 自己学修 事前：入門組織学、入門人体解剖学の該当部分に通し、 <u>臓器や組織の役割について簡単に説明できるようになること。</u> (1 コマ当たり <u>50</u> 分以上) 事後：学習内容が理解できたか、 <u>自身のノートにまとめつつ仲間と話し合い、確認する。</u> (1 コマ当たり <u>40</u> 分以上)	「組織解剖学」 自己学修 事前：入門組織学、入門人体解剖学の該当部分に通し <u>しておく</u> (1 コマ当たり <u>30</u> 分以上) 事後：学習内容が理解できたか、 <u>隣人と話し合い、確認する。</u> (1 コマ当たり <u>30</u> 分以上)

<p>「臨床病理検討会」 自己学修 事前：<u>該当する疾患の概念と病態生理、 病理について、他の科目で受講した内容を復習する。(1コマ当たり70分以上)</u> 事後：<u>経験したCPC症例の臨床経過を要約し、かつ、その病態生理図を作成し提出する。(1コマ当たり3時間以上)</u></p>	<p>「臨床病理検討会」 自己学修 事前：<u>不要</u> 事後：<u>経験したCPC症例の病態生理図を作成し提出する。(1コマ当たり2時間以上)</u></p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 「シラバス」について、応用選択コースにおいて選択することとされている、「臨床検査応用」、「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」の授業計画では、通年で開講され、相当数の授業時間が設定されていると想定される授業科目であるにもかかわらず、授業回数の記載がなく、授業内容の事項も授業回数に対応しているとは見受けられず、どのような授業内容がどのように進められるかが判然としない。学生が当該授業科目を選択し履修するに当たって、当該授業科目で何を学び何を身につけることができるのかが明確に分かるよう、シラバスにおける他の授業科目も含めて改めて確認した上で、各回の授業内容を具体的に記載することを含めて、シラバスにおける記載内容を改めること。

(対応)

ご指摘を踏まえて、応用選択コースの「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」、「臨床検査応用」について、学生が授業科目を選択し履修するにあたり、当該科目の「シラバス」を閲覧しただけで学修内容とプロセスが具体的に分かるよう、シラバス様式（構成）と記載内容を改めた。なお、いずれの授業科目においても、授業の内容や教員が担当する授業回数は変更していない。

各授業科目における主要な改訂点を、以下1)～4)に示すとともに、【資料1】(『応用選択コース4科目の新旧「シラバス」』)においてそれぞれの変更点を明示した。

1) 「バイオサイエンス応用」(3年次 通年6単位：90コマ)

**変更の概要**

応用選択コースにおける本授業科目の位置づけ、授業回数に応じた授業内容、選択テーマ毎の実施場所などを分かりやすく記載した。

**具体的な変更点**

- ①『授業の概要』の本文を一部修正し、本授業を通じて獲得・涵養する能力を、より分かりやすく記載した。また、本授業で得られた成果は、4年次の「卒業研究」にて各自がまとめて発表する流れであることを示した。
- ②『選択テーマの概要』欄を新たに設け、各研究部門で行う主な研究課題と担当教員、実施場所を示した。
- ③『授業計画』には、授業内容とそれに対応する授業回数、開講時期を記載した。

## 2) 「データサイエンス応用」(3年次 通年6単位:90コマ)

### 変更の概要

応用選択コースにおける本授業科目の位置づけ、授業回数に応じた授業内容、開講時期が分かるように記載した。

### 具体的な変更点

- ①『授業の概要』にて、授業内容に関する微細な修正を行うとともに、末尾には本授業で得られた成果は、4年次の「卒業研究」にて各自がまとめて発表する流れであることを示した。
- ②『授業計画』には、授業回数を示し、各授業で取り扱うテーマ(見出し)と取り組む内容とその意義を記載した。また、それぞれの授業回における授業形態と開講時期についても記載した。

## 3) 「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」(3年次 前期1単位:8時間×5日=40時間)

### 変更の概要

本授業は、マネジメントサイエンス応用コース選択者に開講される、診療情報管理士認定資格の受験要件となる病院実習を行う科目である。5日間の実習スケジュールと実習内容が分かるよう、授業計画に記載した。

### 具体的な変更点

- ①『授業の概要』の冒頭に、本授業は「マネジメントサイエンス応用Ⅰ」の選択履修者を対象とした、診療情報管理を学ぶ病院実習であることを追記した。
- ②『授業計画』に、1日目から5日目の授業内容を午前・午後に分けて時系列で示し、各授業の所要時間と担当者を記載した。
- ③『自己学修』に、事前、事後の自己学修時間を追記した。
- ④『成績評価』を、実習態度と成果物により評価することとし、評価項目例を示した。

## 4) 「臨床検査応用」(3年次 通年6単位:90コマ)

### 変更の概要

学生毎に一つの専門領域を選択して臨床検査のトレーニングと研究活動を体験する科目であることは既に『授業の概要』に示していたが、応用選択コースにおける本授業科目の位置づけ、到達目標、各回の授業内容、選択テーマ毎の実施場所、履修上の注意点などがより具体的に分かるように記載した。

### 具体的な変更点

- ①『授業の概要』の末尾に、本授業で得られた成果は、4年次の「卒業研究」にて各自がまとめて発表する流れであることを示した。
- ②『到達目標』では、トレーニングと研究活動のそれぞれにおける目標を分けて示した。
- ③『選択テーマの概要』欄を新たに設け、9つの選択テーマ（研究・トレーニング領域）と担当教員、実施場所を記載した。（欄内の「指導」という用語は「トレーニング」へ変更した。）
- ④『授業計画』には、授業内容とそれに対応する授業回数、開講時期を記載した。
- ⑤『自己学修』には、トレーニングと研究活動のいずれにも対応する事前・事後の取り組み方を記載した。
- ⑥『履修上の注意点』に、授業内で得られたトレーニング成果が4年次にどのように活用されるのかを追記した。
- ⑦『成績評価』の項目中の「レポート（70%）」を、レポート等の「成果物（70%）」とした。

(改善事項) 医学部 医療検査学科

3. 「基本計画書」について、教育課程等の概要において一学期の授業期間は 17 週とされている。一方、「シラバス」に記載の各授業科目においては、多くの科目で 17 回より少ない授業回数が設定されていることから、当該授業期間の設定の妥当性に疑義がある。このことから、本学科の教育課程における目的の達成のために、適切な授業期間が設定されていることについて、必要に応じて関係資料の記載や説明内容について適切に改めること。

(対応)

1 学期の授業期間を 17 週としていたのは、この期間に定期試験等を含めていたほか、一定の教育的配慮を考慮したためであったが、審査意見で指摘いただいたように『本学科の教育課程における目的の達成のために適切な授業期間』よりも過剰な設定を行っていたと判断し、ご指摘を踏まえ、1 学期の授業期間を、授業を実施する週数 (15 週) とするよう改めた。

(新旧対照表) 基本計画書 (教育課程等の概要) (8 ページ)

新	旧
1 学期の授業期間 <u>15</u> 週	1 学期の授業期間 <u>17</u> 週

(是正事項) 医学部 医療検査学科

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

一部の教員が「不可」と判定された授業科目(「血液検査学実習」、「一般検査学」、「一般検査学実習」、「RI 検査学」、「輸血・移植検査学」、「画像検査学 I」)はいずれも主要授業科目であり、専任の教授又は准教授が担当することとしている。今回、「不可」と判定された科目において、主たる役割を果たす担当教員の後任には、診療や研究において当該領域の実務経験を有する専任の教授を補充した。

なお、『新旧対照表(6月)』の「b 教員組織に関する事項」に示すように、「血液検査学実習」の後任となる1名のみ、令和7年度は兼任教員が担当することとなるが、令和8年度には専任教員として就任する予定の者である。その他の後任には、すべて開講年次から専任教員である者を補充している。

(是正事項) 医学部 医療検査学科

5. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第4号に規定する「学習の評価及び課程修了の認定に関する事項」のうち「学習の評価」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

本学では、学部における教育課程をはじめ、履修の方法、学習（試験）の成績及び評価、進級・卒業要件については各学部の学部規則において定めているが、学則においてはご指摘のとおり「学習の評価」の文言がないため、学則を変更し、「学習の評価」の文言を追加する。なお、本件については、令和5年6月23日開催の理事会にて承認を得ている（機関決定済）。

(新旧対照表) 学則 (5 ページ)

新	旧
久留米大学学則 第2章 教育に関する事項 < 省 略 > 第3節 教育課程等に関する事項  (教育課程) 第31条 学部における教育課程、履修の方法、 <u>学習の評価</u> 、課程の修了及び進級に関する事項は、学部規則において定める。 < 省 略 >  附 則 <u>この学則は、令和6年4月1日から施行する。</u>	久留米大学学則 第2章 教育に関する事項 < 省 略 > 第3節 教育課程等に関する事項  (教育課程) 第31条 学部における教育課程、履修の方法、課程の修了及び進級に関する事項は、学部規則において定める。 < 省 略 >

(審査意見以外の対応) 医学部 医療検査学科

＜設置の趣旨等を記載した書類の別添資料 7：教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表の修正＞

(対応)

令和 5 年 5 月および 6 月に、臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第四号に基づく厚生労働大臣の『指定科目』について、厚生労働省への事前相談によりご指導いただいたところ、申請時に行っていた指定科目へ授業科目の対応させる方法（考え方）、及び単位数の換算法を、一部改める必要があることが判明した。そのため、「設置の趣旨等を記載した書類」の「資料 7」の指定科目に対応する各授業科目の単位数を修正し、修正後においても各指定科目における必要単位数を満たしていることを確認した。

この変更に伴い、「設置の趣旨等を記載した書類」の『第 4 4. (3) 臨床検査技師養成における厚生労働大臣の指定する科目との対比』における本教育課程の単位数の記載を改めた。また、資料 7 では、指定科目に対する授業科目の単位数を修正するとともに、4 つの授業科目において単位数（講義/実習）、時間数（講義/実習）の欄に誤表記があったため、これらの箇所も修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30 ページ)

新	旧
本教育課程において『指定科目』に対応する科目の総単位数は、審査基準の総単位数 88 単位より <u>15.9</u> 単位多い <u>103.9</u> 単位である。	本教育課程において『指定科目』に対応する科目の総単位数は、審査基準の総単位数 88 単位より <u>16.6</u> 単位多い <u>104.6</u> 単位である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 7：教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表) (21 ページ)

※「 」内は本教育課程の授業科目を表し、次の行に指定科目名と当該授業科目の単位数を記載する。

新	旧
<p>「<b>免疫学</b>」            人体の構造と機能：<u>なし</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>1 単位</u></p> <p>「<b>マネジメントサイエンス基礎 I</b>」            公衆衛生学：<u>0.3 単位</u>            医用工学概論：<u>0.2 単位</u>            臨床検査総合管理学：<u>0.5 単位</u></p> <p>「<b>バイオサイエンス基礎</b>」            遺伝子関連・染色体検査学：<u>0.3 単位</u></p> <p>『<b>専門基礎科目</b>』欄の小計            人体の構造と機能：<u>8 単位</u>            公衆衛生学：<u>5.3 単位</u>            医用工学概論：<u>5.2 単位</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>1 単位</u>            遺伝子関連・染色体検査学：<u>0.3 単位</u>            臨床検査総合管理学：<u>2.5 単位</u>            上記の合計：<u>24.3 単位</u></p> <p>「<b>血液学</b>」            病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>1.2 単位</u>            血液検査学：<u>0.8 単位</u></p> <p>「<b>臨床医学総論 I</b>」            病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>1.7 単位</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>0.1 単位</u>            生理検査学：<u>0.1 単位</u>            医療安全管理学：<u>0.1 単位</u></p>	<p>「<b>免疫学</b>」            人体の構造と機能：<u>1 単位</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>なし</u></p> <p>「<b>マネジメントサイエンス基礎 I</b>」            公衆衛生学：<u>なし</u>            医用工学概論：<u>なし</u>            臨床検査総合管理学：<u>1 単位</u></p> <p>「<b>バイオサイエンス基礎</b>」            遺伝子関連・染色体検査学：<u>2 単位</u></p> <p>『<b>専門基礎科目</b>』欄の小計            人体の構造と機能：<u>9 単位</u>            公衆衛生学：<u>5 単位</u>            医用工学概論：<u>5 単位</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>0 単位</u>            遺伝子関連・染色体検査学：<u>2 単位</u>            臨床検査総合管理学：<u>3 単位</u>            上記の合計：<u>26 単位</u></p> <p>「<b>血液学</b>」            病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>2 単位</u>            血液検査学：<u>なし</u></p> <p>「<b>臨床医学総論 I</b>」            病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>2 単位</u>            生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>なし</u>            生理検査学：<u>なし</u>            医療安全管理学：<u>なし</u></p>

<p>「<b>遺伝子・染色体検査学</b>」  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>0.2 単位</u>  病理検査学：<u>0.1 単位</u>  遺伝子関連・染色体検査学：<u>0.7 単位</u></p> <p>「<b>輸血・移植検査学</b>」  輸血・移植検査学：<u>1.9 単位</u>  医療安全管理学：<u>0.1 単位</u></p> <p>「<b>微生物検査学</b>」  微生物検査学：<u>2.9 単位</u>  医療安全管理学：<u>0.1 単位</u></p> <p>「<b>生理検査学 I</b>」  単位数（講義）：<u>3 単位</u>  時間数（講義）：<u>46 時間</u>  1 単位当たりの時間数：<u>15 時間</u>  （各指定科目の単位数）  生理検査学：<u>2.9 単位</u>  医療安全管理学：<u>0.1 単位</u></p> <p>「<b>生理検査学実習</b>」  単位数（実習）：<u>2 単位</u>  時間数（実習）：<u>60 時間</u>  1 単位当たりの時間数：<u>30 時間</u>  （各指定科目の単位数）  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>0.1 単位</u>  生理検査学：<u>1.9 単位</u></p> <p>「<b>生理検査学 II</b>」  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>0.8 単位</u>  生理検査学：<u>1.2 単位</u></p>	<p>「<b>遺伝子・染色体検査学</b>」  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>なし</u>  病理検査学：<u>なし</u>  遺伝子関連・染色体検査学：<u>1 単位</u></p> <p>「<b>輸血・移植検査学</b>」  輸血・移植検査学：<u>2 単位</u>  医療安全管理学：<u>なし</u></p> <p>「<b>微生物検査学</b>」  微生物検査学：<u>3 単位</u>  医療安全管理学：<u>なし</u></p> <p>「<b>生理検査学 I</b>」  単位数（講義）：<u>2 単位</u>  時間数（講義）：<u>2 時間</u>  1 単位当たりの時間数：<u>21 時間</u>  （各指定科目の単位数）  生理検査学：<u>2 単位</u>  医療安全管理学：<u>なし</u></p> <p>「<b>生理検査学実習</b>」  単位数（講義）：<u>3 単位</u>  時間数（講義）：<u>3 時間</u>  1 単位当たりの時間数：<u>16 時間</u>  （各指定科目の単位数）  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>なし</u>  生理検査学：<u>3 単位</u></p> <p>「<b>生理検査学 II</b>」  病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>なし</u>  生理検査学：<u>2 単位</u></p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>「画像検査学Ⅰ」 生理検査学：<u>1.9</u> 単位 医療安全管理学：<u>0.1</u> 単位</p> <p>「薬品管理学」 時間数（<u>講義</u>）：20 時間 （各指定科目の単位数） 公衆衛生学：<u>0.4</u> 単位 検査総合管理学：<u>0.6</u> 単位</p> <p>「医療安全・検体採取実習」 単位数（<u>実習</u>）：<u>1</u> 単位 時間数（<u>実習</u>）：36 時間 1 単位当たりの時間数：<u>36</u> 時間</p> <p>「チーム医療演習」 臨床検査総合管理学：<u>0.8</u> 単位 医療安全管理学：<u>0.2</u> 単位</p> <p>「臨床検査医学特論」 病態学：<u>0.3</u> 単位 公衆衛生学：<u>0.5</u> 単位 医用工学概論：0.5 単位 血液検査学：<u>0.5</u> 単位 病理検査学：<u>0.1</u> 単位 尿・糞便一般検査学：<u>0.1</u> 単位 生化学検査学（免疫検査学を含む）： <u>0.4</u> 単位 輸血・移植検査学：<u>0.2</u> 単位 微生物検査学：0.2 単位 生理検査学：1 単位 臨床検査総合管理学：<u>0.2</u> 単位</p>	<p>「画像検査学Ⅰ」 生理検査学：<u>2</u> 単位 医療安全管理学：<u>なし</u></p> <p>「薬品管理学」 時間数（<u>実習</u>）：20 時間 （各指定科目の単位数） 公衆衛生学：<u>なし</u> 検査総合管理学：<u>1</u> 単位</p> <p>「医療安全・検体採取実習」 単位数（<u>実習</u>）：<u>2</u> 単位 時間数（<u>実習</u>）：36 時間 1 単位当たりの時間数：<u>18</u> 時間</p> <p>「チーム医療演習」 臨床検査総合管理学：<u>0.5</u> 単位 医療安全管理学：<u>0.5</u> 単位</p> <p>「臨床検査医学特論」 病態学：<u>0.2</u> 単位 公衆衛生学：<u>0.4</u> 単位 医用工学概論：0.5 単位 血液検査学：<u>0.4</u> 単位 病理検査学：<u>なし</u> 尿・糞便一般検査学：<u>なし</u> 生化学検査学（免疫検査学を含む）： <u>0.3</u> 単位 輸血・移植検査学：<u>なし</u> 微生物検査学：0.2 単位 生理検査学：1 単位 臨床検査総合管理学：<u>なし</u></p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>『専門科目』欄の小計          人体の構造と機能：1 単位          臨床検査の基礎とその疾病との関係：          3 単位          病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>9.3</u> 単位          公衆衛生学：<u>0.9</u> 単位          医用工学概論：0.5 単位          血液検査学：<u>5.3</u> 単位          病理検査学：<u>5.2</u> 単位          尿・糞便一般検査学：<u>4.1</u> 単位          生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>8.5</u> 単位          遺伝子関連・染色体検査学：<u>2.3</u> 単位          輸血・移植検査学：<u>4.1</u> 単位          微生物検査学：<u>6.1</u> 単位          生理検査学：<u>10</u> 単位          臨床検査総合管理学：<u>3.6</u> 単位          医療安全管理学：<u>2.7</u> 単位          臨地実習：13 単位          上記の合計：<u>79.6</u> 単位</p>	<p>『専門科目』欄の小計          人体の構造と機能：1 単位          臨床検査の基礎とその疾病との関係：          3 単位          病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>9.2</u> 単位          公衆衛生学：<u>0.4</u> 単位          医用工学概論：0.5 単位          血液検査学：<u>4.4</u> 単位          病理検査学：<u>5</u> 単位          尿・糞便一般検査学：<u>4</u> 単位          生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>8.3</u> 単位          遺伝子関連・染色体検査学：<u>2.6</u> 単位          輸血・移植検査学：<u>4</u> 単位          微生物検査学：<u>6.2</u> 単位          生理検査学：<u>11</u> 単位          臨床検査総合管理学：<u>3.5</u> 単位          医療安全管理学：<u>2.5</u> 単位          臨地実習：13 単位          上記の合計：<u>78.6</u> 単位</p>
<p>専門基礎科目と専門科目の合計単位数          (B)          人体の構造と機能：<u>9</u> 単位          臨床検査の基礎とその疾病との関係：          5 単位          病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>9.3</u> 単位          公衆衛生学：<u>6.2</u> 単位          医用工学概論：<u>5.7</u> 単位          血液検査学：<u>5.3</u> 単位          病理検査学：<u>5.2</u> 単位          尿・糞便一般検査学：<u>4.1</u> 単位          生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>9.5</u> 単位</p>	<p>専門基礎科目と専門科目の合計単位数          (B)          人体の構造と機能：<u>10</u> 単位          臨床検査の基礎とその疾病との関係：          5 単位          病態学（左 2 項目に含まれない科目）：  <u>9.2</u> 単位          公衆衛生学：<u>5.4</u> 単位          医用工学概論：<u>5.5</u> 単位          血液検査学：<u>4.4</u> 単位          病理検査学：<u>5</u> 単位          尿・糞便一般検査学：<u>4</u> 単位          生化学検査学（免疫検査学を含む）：  <u>8.3</u> 単位</p>

<p>遺伝子関連・染色体検査学：<u>2.6</u> 単位  輸血・移植検査学：<u>4.1</u> 単位  微生物検査学：<u>6.1</u> 単位  生理検査学：<u>10</u> 単位  臨床検査総合管理学：<u>6.1</u> 単位  医療安全管理学：<u>2.7</u> 単位  臨地実習：13 単位  上記の合計：<u>103.9</u> 単位</p> <p><b>各指定科目の必須単位数 (A) に対する (B) の増単位数</b></p> <p>人体の構造と機能：<u>(1)</u> 単位  臨床検査の基礎とその疾病との関係：  (0) 単位  病態学 (左 2 項目に含まれない科目)：  <u>※3.3</u> 単位  公衆衛生学：<u>2.2</u> 単位  医用工学概論：<u>1.7</u> 単位  血液検査学：<u>1.3</u> 単位  病理検査学：<u>0.2</u> 単位  尿・糞便一般検査学：<u>1.1</u> 単位  生化学検査学 (免疫検査学を含む)：  <u>3.5</u> 単位  遺伝子関連・染色体検査学：<u>0.6</u> 単位  輸血・移植検査学：<u>0.1</u> 単位  微生物検査学：<u>0.1</u> 単位  生理検査学：<u>0</u> 単位  臨床検査総合管理学：<u>0.1</u> 単位  医療安全管理学：<u>0.7</u> 単位  臨地実習：1 単位  上記の合計：<u>15.9</u> 単位</p> <p><b>※病態学合計の必須 20 単位との比較</b>  (<u>9</u> + 5 + <u>9.3</u> = <u>23.3</u>)</p>	<p>遺伝子関連・染色体検査学：<u>4.6</u> 単位  輸血・移植検査学：<u>4</u> 単位  微生物検査学：<u>6.2</u> 単位  生理検査学：<u>11</u> 単位  臨床検査総合管理学：<u>6.5</u> 単位  医療安全管理学：<u>2.5</u> 単位  臨地実習：13 単位  上記の合計：<u>104.6</u> 単位</p> <p><b>各指定科目の必須単位数 (A) に対する (B) の増単位数</b></p> <p>人体の構造と機能：<u>(2)</u> 単位  臨床検査の基礎とその疾病との関係：  (0) 単位  病態学 (左 2 項目に含まれない科目)：  <u>※4.2</u> 単位  公衆衛生学：<u>1.4</u> 単位  医用工学概論：<u>1.5</u> 単位  血液検査学：<u>0.4</u> 単位  病理検査学：<u>0</u> 単位  尿・糞便一般検査学：<u>1</u> 単位  生化学検査学 (免疫検査学を含む)：  <u>2.3</u> 単位  遺伝子関連・染色体検査学：<u>2.6</u> 単位  輸血・移植検査学：<u>0</u> 単位  微生物検査学：<u>0.2</u> 単位  生理検査学：<u>1</u> 単位  臨床検査総合管理学：<u>0.5</u> 単位  医療安全管理学：<u>0.5</u> 単位  臨地実習：1 単位  上記の合計：<u>16.6</u> 単位</p> <p><b>※病態学合計の必須 20 単位との比較</b>  (<u>10</u> + 5 + <u>9.2</u> = <u>24.2</u>)</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

＜履修科目の年間登録上限（CAP 制）に関する記載の修正＞

（対応）

申請時には、本学科の教育課程ではほとんどが必修科目であり、選択による過剰な履修登録が発生しないため、CAP 制を設定しない計画であった。しかし、令和 5 年 4 月から学科開設に向け、学内の履修に関する細則等を検討し始めたところ、同様の条件を有する本学医学部医学科及び看護学科においては CAP 制が設定されていることを学内関係者から指摘された。そこで、医学部内の学科間の方針の整合性を図り、学生にも自己学修時間を確保し過度の負担となる履修をさせないことを明示するために、医療検査学科でも CAP 制を設けることとした。

年間の必修単位数が最多となる 44 単位（2 年生）を年間登録上限とし、「設置の趣旨等を記載した書類」における説明（第 5 2.（1）履修ガイダンス）に反映させた。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（34 ページ）

新	旧
<p>なお、<u>年間必修単位数は 2 年次で最多の 44 単位となることから、履修科目の年間登録上限を 44 単位とする。但し、再履修科目（各学年とも 1 科目以内）についてはこの登録上限には含めない。</u></p>	<p>なお、<u>本学科では、一人の学生が登録可能な選択科目数が少ないため、選択による過剰な履修登録が発生することがないため、履修科目の年間登録上限（CAP 制）は設定しない。</u>例えば、1 年次に開講する一般教養選択科目 19 科目は、<u>前期 1 コマ、後期 3 コマの定められた曜日・時限（平日）に、複数の科目が同時に開講し、1 科目のみ土曜日に開講する。</u>ここでの選択必修は 2 科目 3 単位であり、<u>最大限に選択した場合は 5 科目 8.5 単位となる。その結果、1 年次の年間履修登録単位数は、37 単位から 45.5 単位の範囲内にとどまる。「応用選択コース」における選択必修科目では、マネジメントサイエンス応用選択者のみが 7 単位、他のコースの選択者は 6 単位となり、学生間で履修単位に大きな差が生じることはない。</u></p>